



社会新報 号外 (岡山県連合版)

岡山市北区弓之町5-7 Tel.086-226-1234

http://www.sdp.or.jp/okayama/index.html e-mail: sdp_okayama@helen.ocn.ne.jp

社会民主党全国連合機関紙宣伝局(毎週水発行)
〒100-8909 東京都千代田区永田町1-8-1
Tel.03-3592-7515 1部180円月700円年160
毎月1日発行 2012年2月1日

報告と当面する取組み (2月)

倉敷市長選(4月15日告示22日投票)で伊藤香織・現の推薦を決定しました

社民党大会と党首選挙

社民党全国連合は、第13回党大会開催に先立ち、党首選挙が1月20日告示2月4日投票の予定でしたが、最終的には福島党首の無投票当選となりました。党全国連合大会 2月24-25日

岡山県連合第13回大会は、全国連合大会(2年ごと)後に開催、3月中の開催で準備中(詳細は後日)

2月4日党中国ブロック総会：広島岡山県連合から6名参加、衆院選挙態勢など協議、増税・福祉政策の学習・交流

2月7日 2012年度予算・対県要求書提出(石井知事と交渉・意見交換)

2・11日本原反基地県民集会
2月11日(土) 奈義町 11:00~
津山市役所北・衆楽公園(9:30集合
臨時バスで会場移動(津山集合駐有)
※参加は県連合まで連絡をお願いします

澄んだ鳥歌と三味線の響きに至福の一時

社民党岡山県連合は1月28日、約60名が参加して新春旗開きを行い、第一部として原発事故で岡山に避難している蝦名宇摩の響きに三味線演奏を聴かせ、



矢吹準一さんの音頭で「乾杯」、石井知事、伊藤倉敷市長(左)も

2012年 新春党旗開き

(えびなうま)さんを向かえ、奄美鳥歌と三味線のライブでオープン、歌と三味線の響きに参加者一同が聴き入った。

政権交代での期待を忘れず全力での戦いを

第二部は、党県連合・藤田代表があいさつに立ち、初めに参加者全員で東日本大震災で亡くなられ、いまだ行方不明の人に黙とうした後、「昨年、岡山市議選に公認候補で戦う意思統一をした旗開きだった。その後の大震災・原発事故では、文明とは何か、そのもろさに思いめぐらされた。一方、09年の政権交代に寄せた期待はどうなっているか。消費

社民党新春旗ひらき



娘さんとの鳥歌・三味線ライブ

脱原発一千万人署名の党県連合目標3千筆達成へ、一〇筆/党員を2月までに県連合まで!

増税、普天間基地、TPPなどでの変わり様は何か、社民党は一貫して「生活第一」を掲げ、今年必至とされる総選挙を全力で戦おう」と決意を述べた。

続いて石井県知事をはじめ、各政党、自治体首長、各労働民主団体から挨拶を受けた。また、今年伊藤倉敷市長や

岡山で原発建設を止めた闘いがあつた

「1969〜72年頃、日生町鹿久居島に中電から75万kw工費1500億円という原発建設計画が発表されたもの」

「地元や行政は、初めどのように受けとめたのですか」

「日生の産業は、漁業・耐火レンガ・製網・海運が主だが、漁業者は魚が売れなくなると一貫して反対、議会の一部には固定資産税(2〜3億円)が入ると地域の発展につながるという声もあつた」

「町民・関係者にどのような動きが起きてきましたか」

「賛成・反対・中間のそれぞれの立場で講演会を開いた。当時から京大の学生を中心に地元で反対の運動があつた。」



初めて参加の労組からも挨拶を受け、引き続き市議選を戦った矢吹準一さんの音頭で「乾杯」し、お待たせの懇親に移った。

会場は、久しぶりの顔に話が弾んだり、石井知事が挨拶の中で紹介された倉敷産デニムのスーツも話題になるなど、しばし和やかに懇談が続いた。

反対の請願を採択

中電から一千万円の補助で美浜など原発見学会も行なわれ、町民1000人が参加したという

「運動はどう進みましたか」

「県議会では安全問題で質問したり県漁連8千人の反対、原発先進地での海底汚染・薄めれば放射能放出無制限などが明らかに、海外でも見直しの動きがあり、県知事も態度を明確に示せなかった」

「原発中止の力は何だったか」

「町民の真剣な議論と、漁業者の代々からの海を死なせてはならない思いだったか」

「今日、どう思いますか」

「脱原発署名に回って『あの時、止めてよかった』という声を何度か聞いた。運動は先を見ることの大切さを感じた」



利は労働者・市民のものと思っていたが、東京電力社長の電気料金値上げを「会社の権利」発言には、一瞬あ然とさせられた放射能拡散で飛んでいった放射能は土地と分離のため東電のものでない「無主物」にいたっては憤飯ものではない

「健康には直ちに影響はないと繰り返し、他方でアメリカにスピーディ情報を通知、国民に無用な被曝をもたらした責任は免れ得ない。また避難者の帰郷見通しもなく、原子炉状態が不透明なままの「収束宣言」表明は、電力・財界目線でしかないことを暴露したもので、自ら「絆の断線」を引き起こしている▼ところで、正月に読んだ一冊がなぜか「ファシズム論」だった。ファシズムはテマとテロによる支配ともされ、政治や社会の行き詰まりのとき、ときには人々の正義感をも利用して登場するのは、歴史の教訓だ

▼脱原発署名の行動でつかんだ人々の声を反映させることが今の流れに反撃となろう

「新報」読者会
毎月・第1火曜日18時
毎月・第3金曜日18時
場所 社民党県連合会議室
弓之町1時問題懇話会
毎月・第3金曜日18時
2月17日 県連合